

緩和ケアだより

平成28年度 第1号

4月は出会いの月です。病院内も初々しい顔ぶれが見られます。新人の方々は緊張の日々を送っていることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、緩和ケアだよりは年4回定期発行を考えております。皆様の目に触れ、少しでも多くの方々に「緩和ケアセンター」の活動を知っていただければと思います。

緩和ケアセンタースタッフ



今回は新年度にあたり、緩和ケアセンター長とジェネラルマネージャーの挨拶でトップを飾ります。

ご あ い さ つ

緩和ケアセンター長 安藤秀明

年々、緩和ケア診療整備に関わる事項は多くなっており、今年課せられている問題は、がんに関わる医師・歯科医師の緩和ケア研修会全員修了（平成29年6月まで）と苦痛のスクリーニング（外来部門は整備済）です。このため、昨年が続いて、緩和ケアセンターはまたリニューアルしました。実働担当者として「緩和ケアチーム」、緩和ケアセンターの運営を「緩和ケア運営会議」、緩和ケア活動の説明と報告を行う「緩和ケア連絡会議」となりました。



そして、センターでは昨年が続いて、緩和ケア研修会を3回実施します。苦痛のスクリーニングに関しては外来部門でのスクリーニングに関わる問題についてアンケートを行い、入院患者への導入準備を行う予定です。今年度も、皆様と相談しながら、緩和ケアを提供してゆきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

ジェネラルマネージャー 伊藤 真弓



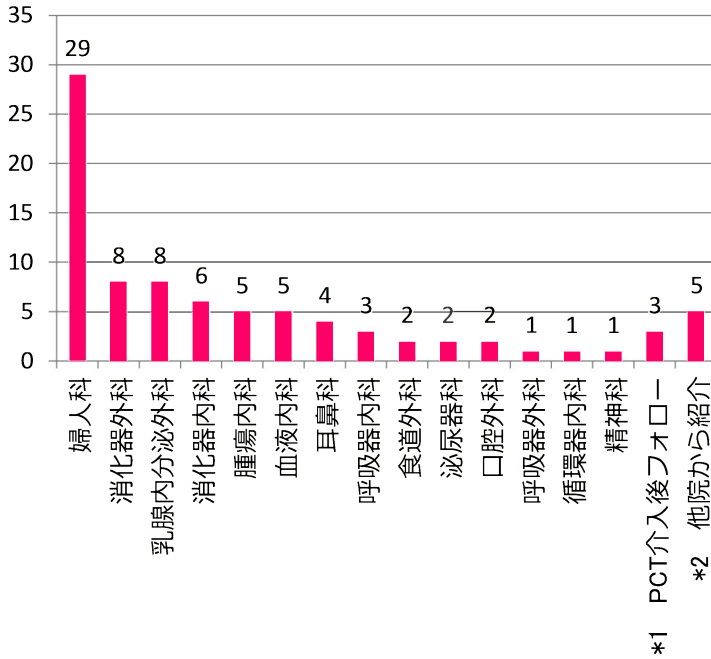
緩和ケアセンターに配属となり、1年が経過した中で出会った事例からの学びをご紹介します。患者さんが日常生活の困難感から「死にたい」と思い悩みたくさんの部署の連携を経て「これからはあんなことをしたい」という考えに変化していく事例に出会いました。A外来での気づき、A外来から緩和ケア外来、がん看護外来へのつながり、さらにA外来、B外来へのつながりがあり、そこから入院、手術を経て自分らしさを取り戻して現在前向きに生活を送ることができている事例です。この事例から学んだことは、困難感を訴えることのできる力を患者さんが持つこと、その苦痛と向き合える医療者であること、そして、患者さんの問題解決のために医療の知識や技術を結集すること・・・今回の事例は秋田大学医学部附属病院だからこそできた緩和ケアだと思いました。今後も、皆様の力を結集して、一人でも多くの患者さんのその人らしい生き方を支えていける病院であることを目指して、GM（がんばれ真弓）の役割を果たしていこうと満開の桜に誓いました。

平成27年度 緩和ケアセンター活動実績

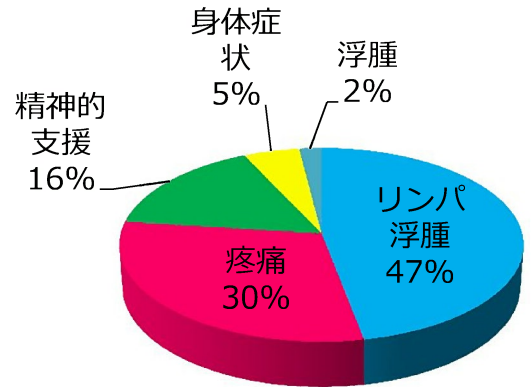
緩和ケア外来

新患者数：85名

新患紹介元内訳



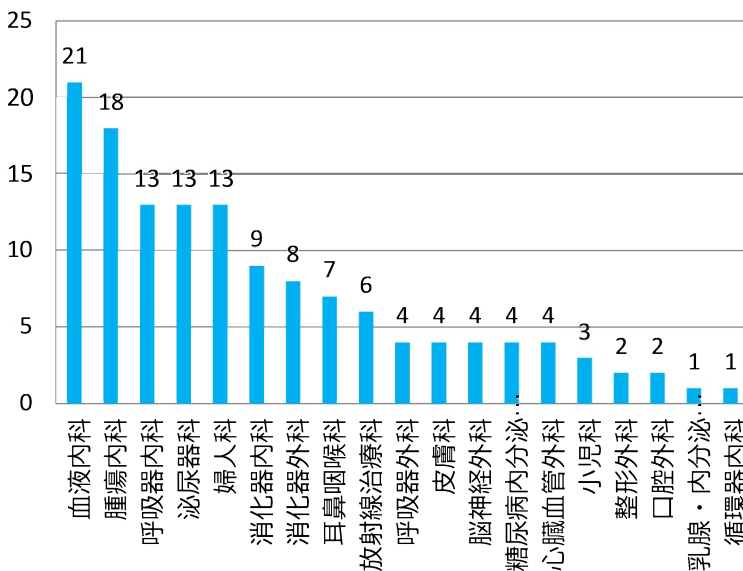
新患紹介目的内訳



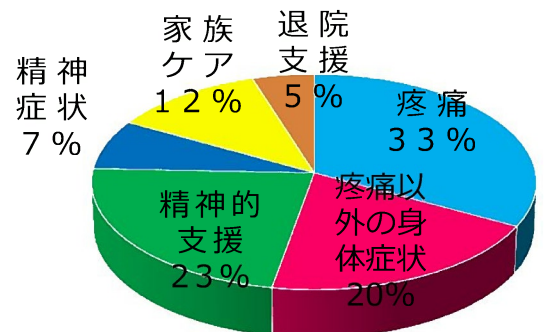
緩和ケアチーム

新規依頼件数 137件 (がん患者 131件, 非がん患者6件)

診療科別依頼件数



依頼内容



「疼痛管理ポケットマニュアル」を改訂しました

緩和ケアセンターが作成し、院内の医療従事者を対象に配布している「疼痛管理ポケットマニュアル」ですが、文字通りユニフォームのポケットに携帯し、日々の診療・ケアにご活用いただいているのでしょうか？この度マイナー改訂を行い、3月に**第8版**を配布しました。主な改訂箇所は以下の通りです。

- **デルマトームの追加**
- **オピオイド製剤に**タペンタ®錠**の追加**

● デルマトームを活用するポイントは何？

脊髄や神経根が障害されると、痛覚や触覚に変化を来します。そのため、**デルマトーム**を使用し、**痛みの部位を確認することは、どの脊髄が障害されているかを判断するのに非常に有効**です。神経障害性疼痛の評価・診断の際に役立ちますので、ぜひ活用してみてください！

● タペンタ®錠が新規採用されました！

タペンタ®錠(タペンタドール)は2015年8月に販売開始された新しい医療用麻薬で、強オピオイドに分類されます。医療用麻薬の選択肢が増え、より患者さんのQOL向上を目指した疼痛マネジメントの可能性が広がります！

【等鎮痛用量比】

タペンタドール経口:モルヒネ経口:オキシコドン経口
=100:30:20(mg/日)

タペンタ®錠のいいところ

オピオイドμ受容体作用および脊髄後角における**ナルアドレナリン再取り込み阻害作用**がある。また、モルヒネ、オキシコドンに比較して、副作用の便秘の出現頻度が少ないのが特徴。

→侵害受容性疼痛だけでなく**神経障害性疼痛への鎮痛効果も期待できる医療用麻薬**です！

おしらせ

「疼痛管理ポケットマニュアル」改訂に伴い、医療安全管理部と共催で5月26日(木)に研修会を開催する予定です！詳細については別途ご案内しますので、ぜひご参加ください！

緩和ケアチーム・緩和ケア外来の依頼方法について

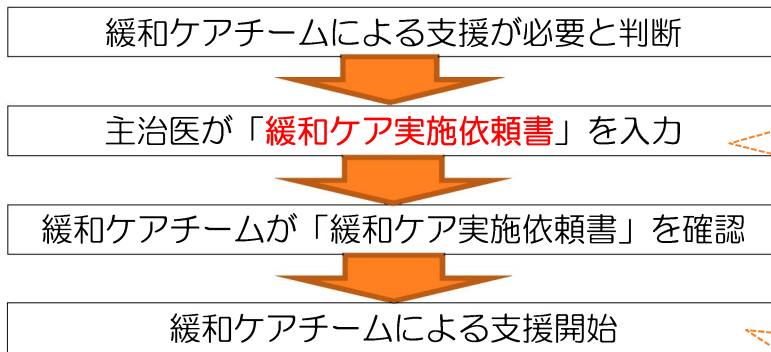
緩和ケアセンターでは「緩和ケアチーム」と「緩和ケア外来」での活動を通して、専門的緩和ケアを提供する役割を担っています。しかし、それぞれに、どのような違いがあるのかイメージがつかず、“どっちに相談したらいいかわからない！”と迷われることがあるかもしれません。ここで、改めて緩和ケアチームと緩和ケア外来の役割と依頼方法についてご紹介させていただきます。

緩和ケアチームについて

- 入院中の患者・家族を対象
- 主治医・病棟スタッフのみなさんが、緩和ケアに関連した困難な問題に対応できるよう、多職種でサポートしています。

【例】コントロールが難しい身体症状、強い不安がありコミュニケーションが難しい患者への精神的支援、心理的動揺が強い家族へのケア等

<依頼方法>



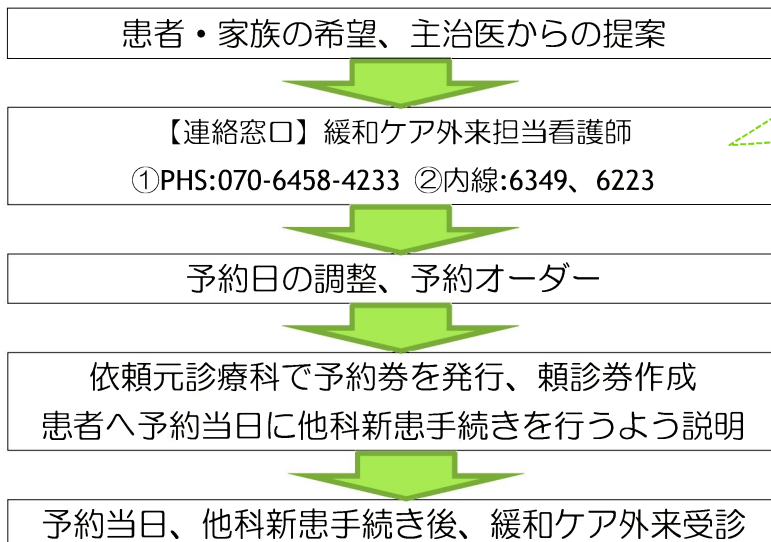
電子カルテ内「同意書・診断書」の会計対象文書です。入力のみで、その他の手続は必要ありません。
お急ぎの場合は、お電話ください！

なるべく当日中に対応するように調整しています。

緩和ケア外来について

- 当院通院中の外来患者を対象(紹介状があれば、院外の患者にも対応)
- 痛みやリンパ浮腫等の身体症状のマネジメントや精神的支援を、緩和ケア医と看護師が、主診療科と併診で行っています。

<依頼方法>



緩和ケア外来は完全予約制ですので、事前に予約をとらせてもらっています。
お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

判断に迷うことがありましたら
いつでも緩和ケアセンターへ
ご相談ください！

緩和ケアセンター
内線:6223